

令和 7 年度 県立伊奈高等学校自己評価表

目指す学校像	豊かな人間性を育み、自主自立の精神を養うとともに、「確かな知力・たくましい体力と精神力を備え、グローバルな視点で社会に貢献し、持続可能な社会の創り手となる人材」の育成を目指す			
三つの方針		具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	INA PRIDE (“Be Your Best Self”～様々な挑戦を通じて、自己の経験と視野を広げ、他者との比較ではなく、過去の自分と比較しながら、自己のより高みを目指す～) というモットーを掲げ、次のような人材の育成を図る。 A 学校における様々な活動に主体的に取り組み、自らの学校生活を充実させ、その経験を振り返り内省しながら自己成長につなげることができる。 B 理想とする将来の自己を常に設定しながら、自己実現に向けた取り組みを粘り強く行うことができる。 C 多様性を尊重し、同時に自己の言動を客観視しながら、課題に対して他者と協働して解決を図ることができる。 D 多文化共生社会における一市民としての意識を醸成し、グローバルな視点で未来を創造し、社会に寄与することができる。		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	地域や家庭と連携しながら、必要となる環境や機会を提供し、生徒が自発的に、自己成長を目指していくように導く。そのために必要となる10の資質・能力（①傾聴力、②持続力、③探究力、④論理的思考力、⑤想像力、⑥創造力、⑦自己肯定力、⑧多様性容認力、⑨行動力、⑩発信力）を生徒が身に付けられるような、授業や探究活動の計画を立て、実施後にその成果を検証する。		
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	① 本校の学修に必要な基礎学力を有している生徒 ② 自己実現に向けて向上心が強く、様々な知識・技能を吸収しようとする意欲と活力のある生徒 ③ 基本的な生活習慣を確立し、学校や社会の規範や礼節を守って日常生活を送ることができる生徒		
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
(成果) グループ学習における協働作業でタブレットを活用する授業が増えた。 また、googleのMeetを通した遠隔授業を実施している生徒に対して、各々の生徒の状況に応じて、「個別最適な学び」を実践できた。 ・授業改善については、県の研究事業をとおして、Padletを活用した相互の授業参観が定着し、日常的に意見交換ができるようになった。また、様々な授業に関する研修や講義の受講が授業改善を促進し		自立した学習者を育む授業改善	(1) 「生徒による授業評価」における「授業満足度」の平均 3.4 以上 (K P I) (2) 授業において、I C Tを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」を効果的に組み合わせ、学習の場における生徒の自立性、内発性を高める工夫をおこなうことにより、高い学習意欲を持って学びに向かう「自立した学習者」の育成をはかる。	A
		進路意識の涵養と学力向上	(3) 地域社会や異校種との連携によるキャリア教育を充実させ、早期の進路意識確立に努める。 (4) シラバスの有効活用により授業内容の充実と計画的指導を実践し、生徒の自学自習の習慣付けを促す。 (5) フィールドワークを含む体系的な探究学習を充実させ、課題発見能力やその解決に向けた論理力を育む。	A

た。その成果は、生徒の授業アンケートでの評価の向上としても表れている。 ・HPや伊奈高だよりによる情報公開を頻繁に行った。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの外部人材と連携して生徒の諸問題に対応することができた。 〈課題〉 ・生徒の家庭学習の習慣づけ。 ・生徒の進路の早期決定のため、保護者の意識啓発が必要。 ・部活動顧問・担任・学年間の連携を図り生徒の部活動を充実したものにする。 ・観点別学習評価手法の定着。 ・体験型探究活動の実践方法。 ・業務軽減に向けた具体的な方策。			(6) 教員研修を積極的に推奨し、観点別学習評価に基づき、授業力向上に努める。特に目標の提示と振り返りを1時間の授業内で行う。	
	安心・安全な学校の実現		(7) 教員研修を積極的に推奨し、発達障害等の知識を身につけたり、組織的で適切な対応ができるようにする。 (8) 面談やスクールカウンセラーを有効に活用し、相談体制を強化して予防に努めるとともにいじめなどの諸問題の早期発見や適切な初期対応、チーム対応に努める。 (9) 各種指導を通して生徒の安全の見取りの実施及び基本的生活習慣の涵養に努める。	A
	人間関係力の向上		(10) 学校行事や部活動・委員会活動等を活性化し、生徒の能力を生かした活力ある学校づくりを推進する。 (11) 特別活動や部活動を通して自主的精神を養い、行動力を培うとともに、より良い人間関係の形成を図る。 (12) 社会貢献活動やインターンシップ等の体験活動の充実を図り、社会的視野を携えた豊かな心を育成する。 (13) キャリアパスポートを活用することで、生徒自身が自らの学びを見通したり、振り返ることで主体的に学びに向かう力を育む。 (14) 18歳成人をふまえ、様々な機会を捉えて成年教育の充実を図り、公民的資質を育む。	A
	働き方改革		(15) 学校の重点目標や経営方針を共有化し、その目標達成のために業務の適正化を図る。 (16) 令和6年4月～令和7年1月の在校等時間について、月平均 23 時間 05 分、月平均 45 時間 超過者割合 11.9%、月平均 80 時間超過者割合 0.0%であるため、本年度は月平均 20 時間以内、月平均 45 時間超過者割合 10.0%を目指す。	C
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
教科指導	密度の濃い授業を展開する。	観点別学習評価に基づき、授業計画、準備を毎時間きちんと行い、指導力を高める。(2)	A	A
		全ての教師が授業を公開し、個々の授業力を向上させる。授業検討会を充実させる。(2)(4)(5)	A	
	シラバスを作成し、有効に活用する。	各種研修会に積極的に参加し、教科会で発表するとともに自己研鑽に努める。(4)(5)	B	
	生徒の家庭学習時間の確保に努めさせる。	「手帳」を有効に活用し、それを基軸として家庭学習習慣の定着に努めるとともに、計画的な学習活動が行えるようにする。(2)(3)	A	
		教科間で連絡を取り生徒の負担が加重にならないように、週末に課題等を出し、充実した家庭学習が行われるよう努める。(2)(7)	A	
	サポーター（大学生、大学院生）を有効に活用する。	個々の教師がサポーター（大学生、大学院生）を有効に活用し、生徒たちの基礎学力と進路意識の高揚を図る。(2)(3)(4)	A	

						る。
教 科	国 語	基礎学力の向上を図る。	漢字テスト、古文単語テストを計画的に実施し、学力向上と進路意識の涵養を図る。(3)	A	A	生徒・教員ともに ICT を活用することができた。観点別評価に基づいた学習評価を適切に行えるよう、授業改善を継続する必要がある。生徒の自主学習を習慣化できるような手立てをより検討していきたい。
		自学自習の習慣付けを促す。	授業の予習や週末課題等を定期的に課すことで、生徒の自学自習を習慣づける。(4)	B		
		国語学習に対する興味関心を高める授業を目指し、改善に努める。	校内外の研修において観点別学習評価に基づいた授業力向上のスキルを身に付け、生徒の学習意欲を喚起するような分かりやすい授業の構築に努める。(1)(6) I C T 機器の使用や協働学習の実施など授業形態を工夫し、主体的な学習を促す。(2)(5) 授業内容に関する疑問、質問を随時受け付け、個に応じたきめ細やかな学習支援を行う。(4)(5)	A		
	地 理 歴 史	基礎学力の定着を図る。	1 学年では中学校の内容を含めた基礎的な事項を復習する。(4)	A	A	中学との持続性を意識した学習を行うことができた。また、定期的な小テストの実施などを通して、学習の定着を図った。今後は ICT ツールなどを活用し、より探究的な学習を実施することを通して、教科全体で思考力、判断力、表現力を高めていきたい。
			シラバスに基づき、小テストを活用して学習到達度を把握する。不十分な生徒に対しては補習等を実施する。(4)(7)	A		
		家庭学習の定着に努める。	授業内容に関する疑問、質問は随時受け付け、生徒の自主的な学習意欲に応える。(4)	B		
			授業内容に関連した問題プリント等を活用し、授業の復習を中心に学習を習慣づける。(5)	B		
		地歴科に対する興味関心を高める授業への改善に努める。	新聞やテレビのニュース等を紹介し、授業内容と実生活との関連を意識させると同時に、思考力、判断力、表現力を育成する授業やテストを工夫する。そのために公開授業の実施、授業内容の向上を目的とした教科会の開催等で研究協議する。(1)(2)(3)(5)(6)	A		
	公 民	基礎学力の定着を図る。	1 学年では中学校の内容を含めた基礎的な事項を復習する。(4)(5)	A	A	まもなく成人となる高校生であることを強く意識し、授業内容と社会、自身の人生のつながりを考えさせる授業を行うことができた。今後は、基礎知識の定着についてもより効果的な授業を行っていきたい。
			シラバスに基づき、小テストを活用して学習到達度を把握する。不十分な生徒に対しては補習等を実施する。(4)(5)(7)	A		
		家庭学習の定着に努める。	授業内容に関する疑問、質問は随時受け付け、生徒の自主的な学習意欲に応える。(4)(5)	A		
			授業内容に関連した問題プリント等を活用し、授業の復習を中心に学習を習慣づける。(5)	A		
		成年教育に留意しながら、公民科に対する興味関心を高める授業への改善に努める。	成年教育に留意しながら、新聞やテレビのニュース等を紹介し、授業内容と実生活との関連を意識させると同時に、思考力、判断力、表現力を育成する授業やテストを工夫する。そのために公開授業の実施、授業内容の向上を目的とした教科会の開催等で研究協議する。(1)(2)(5)(6)(14)	A		
	数 学	基礎学力の向上を図る。	小テストを利用して学習の理解度を把握する。(4)(5)	A	A	問題に取り組む際に、理解度の平均化を図るために話し合い活動などを積極
			学習内容定着のため、放課後質問の時間や課外授業を設ける。(4)(5)	A		
		家庭学習習慣の定着に努め	週末課題等の課題を定期的に点検し、家庭学習の習慣をつける。(4)(5)	A		

別紙様式 2 (高)

		る。 授業改善に努める。	授業公開、研究協議、および生徒へのアンケートを行い、授業改善を図る。(5)(6)	A		的に取り入れた。家庭学習の定着化に向けた継続的な取り組みが今後の課題である。
			各種研修会に積極的に参加する。(6)	B		
	理 科	基礎学力の定着・向上を図る。	授業の中で問題演習や小テストを実施して、学習の理解度を計画的に把握する。(4)	A	A	授業については計画的に進め、生徒が見通しを持ちやすい授業の展開に努めた。また、実験を通して協働的な学習を促した。一方で、家庭学習の習慣をつけさせる取り組みには改善の余地がある。
			授業力向上のため、目標の提示と振り返りを授業内で行う。(4)(6)	A		
		自学自習の習慣付けを促す。	授業内容の復習のために問題演習プリントやワーク等を活用し、家庭学習の習慣を付けさせる。(4)(6)	B		
			I C Tを活用して学習の取り組みや到達度を定期的に点検し、これをフィードバックすることにより、学習意欲の向上を図る。(2)(4)(5)	A		
		理科に対する興味・関心を高める授業の改善に努める。	授業内容の向上のための研究協議を行う。(6)	A		
			身近な科学の話題を取り上げ、レポート等の作成などを実施して協働的な言語活動を充実させる。(5)(6)	A		
	保健 体育	明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。	生活習慣を確立させ、心と体の関連について理解させるよう努める。(9)	A	A	体育や保健の見方・考え方を働かせ、それぞれが課題を発見し、合理的に解決へ向かうように授業を展開することができた。社会生活における健康・安全について理解を促せる手立てを工夫したい。
			ヘルスプロモーションの考え方を理解させ、適切な生活行動選択ができるように努める。(4)	A		
		健康の保持増進と体力の向上。	健康・安全や運動について身近な生活における実践的な理解を図る。(3)(4)(9)	B		
			生徒個々の心身の発達の特性を理解できるように努め、運動の実践を図る。(1)(2)(4)(5)(7)	A		
		生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の向上。	授業時間内での運動量の確保を図る。(1)(2)(5)(6)	A		
			安全管理、施設用具の点検を行う。(9)	A		
			個人の集団の運動課題を認識させ目標を設定し、課題解決の実践を促す。(1)(2)(3)(4)(5)	B		
			運動の関心や自ら運動する意欲を育て、楽しさ喜びを感じさせる工夫した授業の展開に努める。(1)(2)(3)(4)(5)	A		
	芸 術	基礎的・基本的な内容の確実な定着を図ることにより、創造的な能力を育てる。	運動部活動への加入を促し、運動部顧問との連携のもと、加入者への支援を充実させる。(3)(10)(11)	B	A	我が国の伝統的な音楽や作品に触れ、芸術と共に伝統を愛好する心情を育むことができた。今後は我が国の伝統はもちろん、諸外国の時代背景と芸術作品の結びつきについても深く考え、様々な表現方法について学び、芸術の多様性
			個々に応じた丁寧な指導を目指し、自ら課題を発見し音楽の良さや美しさを感じ取る能力を育てる。(4)(6)	A		
			練習回数をこなすことで、基本的な知識や技術の定着を図る。(4)(6)	A		
			歌唱や器楽等の表現活動、作品や発表に対する批評活動に主体的に参加させ、基礎的な技術、思考力、判断力、表現力の向上を図る。(2)(4)(6)	B		
			アンサンブル活動を通して、共に演奏し楽しむ姿勢を育成する。(1)(4)(6)	A		
			生徒の実態に即した教材や内容の精選。(4)(6)	A		
		美術に関する専門的な学習	様々な作品の鑑賞を通して、芸術の良さや美しさを感じとる能力を育てる。(4)(6)	A		

別紙様式 2 (高)

		を通し、感性や創造的な表現と鑑賞の能力を高める。	創作することに深い興味を持ち、主体的に取り組む姿勢を育てる。(1)(4)(6)	B		に触れることによって、自己表現でもある創作活動に生徒が意欲的に取り組めるような授業展開を心掛けていきたい。
			基本的な表現及び専門的な表現方法を学び、表現の幅を広げる。(4)(6)	A		
			試行錯誤しながら、自己実現する能力を養う。(4)(6)	A		
	外国語	基礎学力の定着を図る。	平日の授業や課外授業の内容を向上させるため授業公開を実施し、わかる授業を展開するよう努力する。インプット・アウトプットを意識した授業展開を図る。(1)(2)(6)(15)	A	A	自宅での学習時間の確保と基礎的な文法の知識の定着方法の実施。3年間を見据え卒業時点での進路実現に向けた CANDO リストの見直しと、効果的な学習計画を立てる必要がある。
			サポートティーチャーの有効活用を検討し、教科で共通理解を図る。(3)	A		
			シラバスを活用して生徒に積極的な予習を促し、家庭学習を定着させる。(4)	A		
			言語活動を充実させ、コミュニケーション能力の育成を図る。(2)(3)	A		
		家庭学習時間の確保に努めさせる。	英単語試験を行い、基本的な語彙の習得を図る。長文読解力養成として、音読練習の指示を出す。(2)	A		
			定期的に課題を出して英語のインプット量を増やす。(2)	A		
		英検等の検定試験の受験に挑戦させる。	実用英語検定試験を積極的に受験するような指導体制を確立し、多くの受験者が出るように努める。(2)(3)	A		
	家庭	主体的・対話的な学びを促す授業内容や授業展開にする。	各領域の実習やアクティブラーニングの実践を通じ、主体的に生活課題の解決能力を育成する。(2)(3)(5)	A	A	実習の内容を精選し、授業時間内にスムーズに片付けまでできるよう取り組めた。学習した内容を家庭生活で役立てられるよう、さらに、知識・技術の定着や、さまざまな課題について自身で考え、柔軟に対応できる力を育てていきたい。
			実践的・体験的な学習をより多く取り入れ、共同作業を通じて互いに学び合う。(2)(3)(5)	A		
		現代の家庭生活で生き抜く力が身につくように実習及び体験学習の充実を図る。	調理実習・被服実習などの実習及び体験学習を積極的に取り入れ、生活者としての技術や知識の習得を図ることで、生活の質 (QOL) を高める視点を持てるように育てる。(2)(3)(4)(9)(14)	A		
			短時間で出来る調理実習の献立を工夫し、家庭生活で役立てるようにする。(9)	A		
		豊かな心の育成を図る。	家族・社会の変化・課題に関心を持たせ、共に助け合いながら生きることの大切さを考えさせ柔軟に対応できる力と、自他の生命を尊重する態度を育てる。(2)(3)(5)(12)(14)	B		
	情報	今後の情報社会に不可欠な情報リテラシーを身につけさせる。	実際に実習を行いながら、情報社会の仕組みや特徴及びインターネットの利用に必要なルールやモラルを考えさせる。(4)(5)	A	A	現代社会における情報に関わる問題について、授業内だけでなく実生活にも役立てるように指導したい。
		情報社会における情報倫理の必要性を考えさせる。	知的財産権やハイテク犯罪などについて具体的事例をもとに考えさせるとともに、個人情報の保護について意識を高めさせる。(3)(4)(5)(12)	A		
		インターネットを利用した進路学習・修学旅行の事前学習・事後学習。	インターネットを利用して、自分の進路について調べさせる。修学旅行の際に事前・事後学習を行う。(4)(5)	B		

別紙様式 2 (高)

	総合的な探究の時間	社会の一構成員である自覚をもって自己を見つめる姿勢を育てる。	学校行事や地域社会との交流を通して、他者との関わり合いの中から自己を見つめる機会をもつ。(2)(3)(5)(10)(11)(12)(14)	A	A	学校行事で他者と関わり、自己肯定感を高め、進路学習で自己を見つめる機会をもつことができた。 身近な問題について、情報を収集し、意見交換をする場面も設定することができた。 これらの経験から、さらに広い社会へと視野を広め、自ら考えを深めることができるようになると良い。
		国際理解、環境問題、福祉問題に興味を持ち、自ら考える力の育成を図る。	身近な問題に興味をもち、情報収集をすることで、さらに広い地域、国際社会まで視野が広がるような、学びの場を作る。(2)(3)(5)(10)(11)(12)(14)	B		
		自分の生き方について深く考えることができる。	進路学習を軸に、自らの考えを発表し、他者の考えから学ぶ経験をすることで、自分の一生について深く考える機会をもつ。(2)(3)(10)(11)(12)(14)	A		
		学問分野や職業について研究し、進路実現につなげる。	自分に必要であり正確な情報を収集する力を養う場面を設定し、進路実現に役立てる。(2)(3)(5)(10)(11)(12)(14)	A		
教 務	授業時間の確保に努める。		職員の出張・年休等の場合の振替実施率 100%を目指す。(1)(4)	A	A	授業・時間割等の日々の業務については、問題なく遂行されたので、次年度も引き続き現状を維持したい。 学校説明会等については、その内容についてもう一度精査し、何を目的とした学校説明会にすべきなのかを、明確化し、職員間でも共通認識をもって実施したい。 学校広報について、学校HPの更新のスピードアップや、さらに SNS などの活用などによって、本校の取り組みや成果を、逐次発信していけるようなシステムを構築していきたい。 スクールバスについては、料金の値上がりに伴って利用者が減少。かなりの赤
			授業は始業ベルと同時に開始するよう職員間で「ベル着」の共通理解を持つ。(1)(4)	A		
			学校行事等で授業がつぶれないよう日程調整により授業時間の確保をする。(2)(4)	A		
	地域社会との連携に努め、本校のアピールポイントを積極的に地域に発信する。		中学校訪問・学校新聞（伊奈高だより）配付・ホームページによる情報提供を充実させる。 保護者等による学校評価の結果を日々の教育活動に反映させる。(3)	A		
			中学校 1 日体験入学・学校説明会の実施と、それらを通じて本校の魅力を十分伝えられるよう、さらなる内容の充実を図る。(3)	B		
	円滑な学校運営に努める。		「授業公開及び授業改善」に積極的に取り組み、教師の授業公開が円滑に展開できるように連絡調整に努める。(1)(2)(4)(5)(6)	B		
			シラバスの有効活用について、広く意見を求め、発展させる。(1)(4)	B		
			各校務分掌、学年、教科と連携を密にし、円滑な学校運営に努める。(6)(7)	A		
			奨学金に関する業務、教科書に関する業務が遺漏なきよう万全を期す。(1)	A		
	より良い学習評価の方法を検討する。		学習評価のあり方を再度検討し、生徒の学習活動の実態により即した評価方法を確立する。(1)	B		
	校内情報機器環境の整備・校務支援システムの活用		適正な情報機器環境の整備・パソコンの更新。新教育情報ネットワークシステムの運用・活用。生徒の出欠管理・授業振替等に係る校務支援システムの活用方法の検討と運用の定着化。(2)(5)	A		

別紙様式 2 (高)

					字が見込まれるため、次年度はコースを減らすなどの経費削減を行う必要がある。
特別活動	集団活動の意義を学ばせ、自発的・自治的活動の醸成に努める。	文化祭、野球応援、クラスマッチ等の学校行事を通して生徒会活動や HR の活性化に努め、活力ある学校づくりを目指す。(10)(11)	A	A	・学校行事を通した本校教育活動の活性化に努める。 ・文化祭や野球応援・クラスマッチの実施内容について、生徒の主体性を最大限に尊重し、工夫をしながら計画/実施していく。 ・部活動運営方針に基づき、引き続き、部活動への積極的な参加や人間性・社会性の醸成をめざしていきたい。
		各委員会活動を活性化し、自主性、積極性、協調性、責任感を養う。(10)(11)(12)	A		
	部活動を奨励し、活性化を図る。	部活動に積極的に参加することにより、技術の向上に加え忍耐力・人間関係・社会性を培い、豊かな発想力を育て、充実した学校生活が送れるよう支援する。(10)(11)(12)	A		
	地域と連携し、社会的体験や自然的体験を重視し、その意義を明確にする。	地元の小中学校や特別支援学校との交流・奉仕ボランティア活動や自然体験活動を積極的にし、地域の人々と交流して、社会性や人間性を培う。(3)(12)	B		
	主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につなぐ。	学級活動及びホームルーム活動を中心にして「キャリア・パスポート」を活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長の自己評価を行い、自己のキャリア形成に生かそうとする態度を養う。(3)(11)(12)(13)	A		
生徒支援	全職員による指導体制の構築に努める。心の教育を重視し、人の命の大切さや好ましい人間関係の醸成に努める。	各学年主任及び生徒指導部員を通して、指導の細則について職員の共通理解が得られるように留意する。「いじめ認知ゼロの学校の撲滅」の実現を目指すとともに、担任等による面談等を通じた情報収集に努め、全職員でいじめの未然防止・早期対応に取り組む。(8)	A	A	・先生方の日頃からの声掛けにより、教員と生徒との信頼関係が図られている。その結果、様々な問題を早期の段階で生徒が相談しやすい環境ができています。問題の早期発見・早期対応につながっている。 ・講演会や教員からの呼びかけを行っても、善悪の判断がつかず問題行動につながっている。様々な話を自分事として聴けるように働きかけたい。 ・地域社会との連携を図り、問題に対する対応を行った。
		毎月 1 回、学年ごとに服装チェックを実施すると共に、全職員で正しい制服の着方や清潔な頭髮に心がけようとする意識を高める。(9)	B		
		教務部とともに、始業チャイム着席の励行を促進し、学習に取り組む意欲の喚起に努める。(9)	B		
		交通安全についての指導を行い、安全への意識を高める。(9)(10) ・通学路での登校指導　・交通事故の新聞記事を素材とした指導。 ・警察官による交通安全講話の実施　・バイク実技講習会の実施。	A		
		健康と安全に関する意識を高める。(9)(10) ・薬物乱用防止教室、携帯安全教室、学校生活調査の実施等	A		
	家庭及び地域社会との連携を図り、円滑な指導ができる協力体制の構築に努める	年に 2 回の保護者面談、PTA 総会、PTA 支部総会などの機会をとらえ、本校での指導内容や近隣で発生した事象について広報し、家庭での指導の充実と学校への協力体制作りに努める。(7)(8)	A		
		所轄署の生活安全課、交通課や交番との連携を図り、交通事故や変質者被害などに即応できるように努める。(8)(9) ・通学安全マップを配付しての協力依頼等	A		

別紙様式 2 (高)

		つくばみらい市役所総務課(交通安全担当)、地域の交通安全協会等と連携を図り、交通安全キャンペーンやバイク実技講習会などへの協力をしてもらえるような体制作りに努める。(3)(9)	A		
進路指導	多様な進路希望を持つ生徒の進路実現に向けて、キャリア教育を推進する。	各学年と連携し、職業人講話や大学模擬授業などの進路行事を、3年間を見通した系統的・計画的なものとする。(3)(12)(13)	A	A	・生徒の実態に即した各種進路行事の見直し、事前、事後指導の充実などキャリア教育の更なる推進を図る。 ・進路目標の早期決定や選択のミスマッチを減らす指導を充実させる。 ・低学年からの進路意識向上と進学情報の収集、共有を図る。 ・新課程入試の情報収集と提供およびその対策。
		低学年からの段階的な進路行事において事前・事後指導の充実を図り、高い目標設定の意義を伝え、課題解決力・キャリアプランニング力の育成を目指す。(3)(12)(13)	A		
		課外や模擬試験・検定試験、進路別学習会など様々な学習活動での効果的な指導を計画・実施する。(3)(5)	B		
		サポートティーチャー制度を有効活用し、個に応じた学習支援を行うことで学力向上を図る。(3)	A		
保健厚生	生徒の心身の健康の保持・増進。	生徒・保護者への講演会の実施、情報誌の提供や進路便り発行などとおして、具体的でタイムリーな情報提供に努める。多様な新入試制度の情報を整理・共有し対応を検討する。(3)	A	A	・各種委員会の活動活性化を図るため、開催回数を増やし自主的活動を促す。 ・教育相談に関する職員研修を企画する。 ・保健便りなどを通して、生活習慣の重要性や感染症に対する更なる注意喚起を促す。 ・防災教育の充実。 ・購買についての見直し。
		心身上的問題を抱えている生徒はもちろん、いじめにつながりそうな生徒間の行動にも目を配りながら、担任・学年との連絡を密にし、早期発見、早期対応ができるよう日頃の観察や相談に努める。また特別支援教育・教育相談についての教員対象研修会の機会を設け意識を高める。(5)(6)(7)(8)	B		
		教育相談の機会設定及び保健室・相談室へ気軽に来室できる環境整備に尽力する。(6)(7)(8)	A		
	学習環境を整える。	年間を通じて生徒の健康管理や予防について注意喚起し、安全衛生上の問題箇所を点検・把握し解消するよう努める。(7)(8)(9)(10)	A		
		ゴミの分別化・減量化・再利用について考える機会を与える。(7)(10)	B		
図 書	図書館の環境を整え、教育的かつ文化的な環境の向上を図る。	冷暖房による教室内の環境整備(温度・湿度・CO ₂) (7)(10)		A	他校との交流会にも積極的に参加し、活動状況について情報を得ながら生徒による活動を活性化したい。 限られたスペースでの配架の工夫を考えたい。
		防火・防災に努める。	A		
	書物に親しむ習慣を身に付ける。	学校の規模に応じた蔵書構成や、図書館内の美化、図書の管理・整備を心がける。(2)(5)	A		
		季節に応じて館内の装飾を工夫し、親しみやすく閲覧しやすい図書館をめざす。(5)(10)	A		
		図書購入希望を行い、生徒の希望図書購入に努める。(2)	A		
渉 外	PTA活動の推進に努める。	図書館報や新刊案内を発行し、読書習慣の向上を図る。(2)(5)	B	A	・PTA加入人数減少を止める手立てを考える。
		研修会や文化祭、市立図書館でのインターンシップに参加し、委員会の活動を活性化する。(3)(10)	B		
		PTA活動の活性化に努める。(3)(9)	A		
		PTA会員相互の親睦を深める。(3)(10)	A		

別紙様式 2 (高)

	広報活動の活発化に努める。	P T A 広報誌「けやき」の発行回数 2 回を維持し、広報委員主体の紙面づくりを図る。(9)	A		・研修会への積極的な参加を促す。 ・創立40周年を学校全体で祝える企画を立てる。
	研修の実施と内容の充実を図る。	保護者向けの研修の機会を設け、充実した研修を行う。(3)(12)	A		
第 1 学年	基本的生活習慣の確立と規範意識の定着を促す。	自己管理の啓発に努め、基本的生活習慣の確立を促す。(9)	A	A	概ね目標を達成できたと言える。生徒はまだ幼さが残り、規範意識の確立に苦慮するところもあったが、学年職員で協力して取り組むことができた。不安定な生徒が多く存在する中、個別面談の実施や S C、S S W などと連携し、早い段階で対応したことで諸問題の解決につなげることができた。学習面では、家庭学習時間調査を毎週実施することで、家庭学習の習慣化を図った。今後、自身の興味関心について考える機会を与えることで、進路意識の確立につなげていきたい。
		容儀指導や集団生活を通して規範意識を確立させ、社会で通用する常識や良識のある人間性を育成する。(9)	B		
	学習習慣の確立と学力の定着を図る。	各自が明確な目標をもって授業に臨み、毎時間の振り返りを家庭学習の習慣につなげられるような授業を計画・実施し、課題を提示するよう努める。(4)(6)	A		
		個別面談、各種調査等で生徒の実態の把握に努め、課外やサポートティーチャー制度を活用し、個に応じた学習支援を行う。(3)	A		
	多様性を尊重する豊かな人間性を育成し、安心・安全な集団を育む。	探究や学校行事、部活動を通して、自主的精神を養うとともに、多様性を尊重できる豊かな心の育成に努める。(10)(11)	A		
		生徒の抱える問題を担任面談等を通じて早期に把握するとともに、学年だけで対応せずに、スクールカウンセラーを活用し、専門機関との連携も視野に入れ、早い初期段階から適切に対応する。(7)(8)	A		
	社会的見地の拡充と、自己理解を図り、進路意識の確立を促す。	社会貢献活動やインターンシップ等の体験活動への積極的な参加を促し、地域社会や社会情勢への興味・関心を高揚させるとともに、自己肯定感を味わう機会を設ける。(12)	A		
		社会で生きる現実を意識させ、自己の興味・関心や適性について深く考える機会をつくり、進路意識の確立を図る。(3)	A		
第 2 学年	進路意識の醸成と学力の向上を目指す	大学模擬授業や進路講演会を実施し、将来の進路実現に向けて意識を高めさせる。(3)	A	A	各種行事において生徒が主体的に活動する様子が見られた。特に修学旅行では、自主的・主体的に行動すること、他者と協力する心や、互いを思いやる精神を育むことができた。 担任を始めとする学年職員が連携し指導にあたることで、諸問題の解決を図ることができた。
		学習記録アプリやスタディ・サプリを活用し、自ら計画的に学習する習慣を身につけ、安定的な家庭学習時間を確保し、学力向上に努める。(4)	B		
		課外授業やサポートティーチャー、I C T の有効活用を図り、個に応じた学力支援を行う。進路希望の具現化を意識した学習を促す。(4)(5)	A		
		生徒との面談を頻繁に実施し、進路の自己実現に向け努力させる。(8)	A		
	基本的な生活習慣の確立と組織的に対応する集団作り	H R 活動、道徳プラス、学年集会等を通じて基本的な生活習慣や社会規範意識を育成する。(9)	A		
		様々な事情で困難な状況にある生徒に対しては、担任の面談のみならずスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等と連携しチームで対応する。(7)(8)	A		
	協働する心を育成し社会に貢献できる力をつけさせる	部活動や修学旅行などの学校活動を通して行動力を養い、他者と協働できる心を育てる。(10)(11)	A		
		総合的な探究の時間のグループ活動を通して、協働する心を育成し、社会の出来事への興味・関心	A		

別紙様式 2 (高)

		を高め、社会の一員としての自覚を持たせるとともに、その活動の記録を残し、自己の成長の過程を振り返ることで自己肯定感を高める(12)(13)			進路を決定するために、さらに興味・関心を深め、自分の適性・能力を正しく判断できるよう、指導していきたい。
		学習ボランティア、インターンシップ、その他幅広いボランティア活動などの社会貢献体験への参加を促す。(12)	A		
第3学年	早期の進路目標の設定と進路実現に向けた学習習慣の確立及び学力向上を図る	進路分野別に進路学習を実施し、探究活動の成果をもとに、進路情報の収集や志望理由書作成の指導を通じて、生徒の具体的な進路目標を設定させる。(3)(5) 生徒個々の自学自習を定着させるため、定期的に面談等を実施しながら学習管理を行い、進路実現に向けた支援を行う。(1)(2)	A	A	・基礎学力の確実な定着を基盤として、受験に耐える学力の醸成を図るために、3年間を見据えた体系的な指導の計画。 ・生徒の進路目標の早期決定を図るための進路指導。 ・問題行動発生時における職員間の連携および情報の共有。
		教科毎に授業改善に取り組み、指導内容を明確化し、シラバス等を通して生徒に一年間の学習方針の周知を図る。(2)(4) 観点別評価を充実させ、「授業公開」を実施し授業を検証することにより、充実した内容の授業につなげ、生徒の学習意欲の向上を図る。(1)(6)	A		
	学校生活に主体的に取り組み、様々な活動などを通してより良い人間関係の形成を図ることで、豊かな心の育成を目指す	進路分野毎に模擬試験を実施し、問題の分析や結果を分析することで、生徒が身につけるべき力を把握し、生徒の学力向上を図る。(2)(6)	A		
		社会貢献活動等の体験活動の充実を図り、社会で生きる上で必要となる人間関係力を向上させる。(5)(12)(14)	B		
	組織的な相談体制を充実させ、基本的生活習慣と規範意識を身につけ、社会で生き抜くための力を養う。	学校行事への参加を積極的に促し、高校生活を有意義に送れるよう支援する。また学校行事への参加を通して自主性と社会性を育てる。(10)(11)	A		
		諸事情により困難な状況にある生徒に対し、担任や学年職員による面談だけではなくスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等と連携しチームで対応する。(7)(8)	A		
		学年集会・HR活動・各種ガイダンス等を通じて、基本的生活習慣や社会的規範意識を育成し社会で通用する常識・良識ある人間性を養う。(9)(14)	A		

※ 評価基準：A：十分達成できた B：達成できた C：やや不十分だった D：不十分だった